

# 産経新聞

平成22年(2010) 日刊24121号

1|25 [月]



発行所 ©産業経済新聞東京本社2010  
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2  
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

## アート・ディレクター 水谷孝次さんが「デザインが奇跡を起こす」を出版

2008年の北京五輪開会式。世界中の子供たちの笑顔をプリントした傘が開かれたシーンを覚えているだろうか。その写真を撮ったアート・ディレクター、水谷孝次さん(58)が『デザインが奇跡を起こす』(PHP研究所)を出版した。デザインの賞を総ナメにし、パブルのころには稼ぎまくっていた水谷さんがたどり着いたのは、デザインで世の中を幸せにすること。元気がない日本人に「志を持って飛べ!」と熱いメッセージを贈る。(喜多由浩)

旧型のデジカメをぶらさげて回った国は25カ国。撮影した「笑顔」は3万人分以上になる。「MERRY PROJECT(メリー プロジェクト)」と名付けられたイベント。メリーとは、「ハッピー」をもっと広げて、深くしたようなイメージだ。日本を代表するアート・ディレクターの一人である水谷さん。パブル景気のころにはほとんど大きな仕事が無い込み、通

## 「笑顔」が世の中を幸せに

帳の残高がとてつもなく膨らんだ。クライアントもお金に糸目はつけない時代。フランク・シナトラを起用した航空会社のポスターを作ったときは、わずか45分間で数億円がかけられたという。

「こんなのおかしいし、ちっとも楽しくない。日本をおかしくしたのは間違いなくパブルで

大地震に襲われた中国・四川

。悲しいときにこそ「笑顔」が必要ではないか。そう考えて危険な地域にも乗り込み、カメラを構えた。もちろん収益なんかない。いつしかついたあだ名が「笑顔を胸にしたドンキホーテ」。

「ひとにメリーを与えると自分にもメリーが返ってくる。お金がなくても、笑顔と優しい言葉を与えればいいんですよ」。北京五輪のプロジェクトも無報酬だった。難しい条件を突きつける組織委員会の前に企画は何度も頓挫し、最後は単身、北京に乗り込んで開会式の総監督を務める張芸謀氏(映画監督)との直談判に持ち込んだ。

「『思い』は強いですね。成し遂げることで世の中を良くしたいと思うから。今の日本は豊かで成熟した社会だから、若い人たちは志を持ちにくいのかも。しれないけど、エネルギーも感じない。『思えばかなうんだ』という強い気持ちを持って飛んでみる。必要じゃないのかな。そんな情熱とロマンが奇跡を起こすんです」

長引く不況で、事務所の維持さえ容易ではない。だが、こうした時代だからこそチャレンジできることもある。「守りに入ってはダメ。苦しいときこそ『笑顔』ですよ」



世界中の人たちの「笑顔」を撮り続ける水谷孝次さん  
|| 東京都内の事務所

